

**ア**  
**児童の状況**

自己評価Aと外部評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

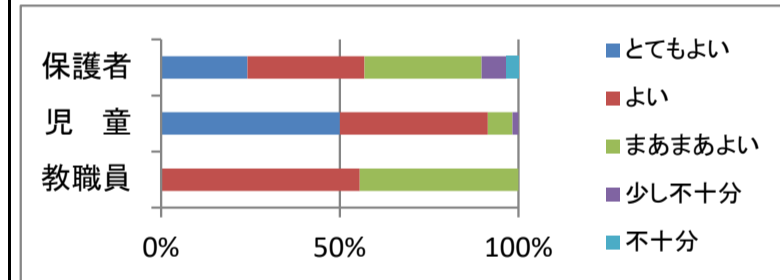
**I 自主的・自律的な生活**

評価項目	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な生活習慣を身に付け、主体性や責任感をはぐくもうとしている。	前期	良好	子どもたちにインタビューしたら、「学校は楽しい。」と、言っていた。「不登校傾向の子どももいない。」とも言っていた。児童減に応じて、活動の見直しも前向きに行っている。
	後期	良好	インタビューした子どもたちの、あいさつや言葉づかいはしっかりとしていた。早寝早起き朝ご飯もしっかりできていた。一人勉強もスポ少活動の後にしっかりと行っていた。
校自己改善策の概要と学	<p>【前期(→後期)】今年度は「ハロー&amp;スマイルプロジェクト」と題して、挨拶を重点に取り組んだ。本校の傾向として、期間中はやる気をもって頑張る児童が多いが、それ以降はやや下火になるという傾向が見られる。「いつでも・どこでも・誰にでも」挨拶ができる東小っ子を目指していきたい。委員会や係活動では、児童による自主的・自発的な活動という点が話題になった。本校は自分の仕事に責任をもって臨むことのできる児童が多いが、自主性や自発性という点がやや弱い傾向にある。時間はかかるが、各委員会で児童による話し合いや活動となるよう根気よく指導していくことを確認した。</p> <p>【後期(→次年度)】アンケート結果では「挨拶・言葉使い」で、子どもたちの自己評価ポイントが前期より上がった。前期はこのポイントが前年度より下がっていたため、全職員でよい挨拶を奨励したり認めたりしていこうと話合って実践できたことと表れと考えている。今後も、適宜活動を工夫して、本校のよい挨拶を今後へつないでいきたい。また、委員会や学級活動では、児童の自発的・主体的な活動を意識して取り組んだ。子どもからの素直な感想や気づきから、自分たちができることを考えたり話し合ったりすることを積み重ねて、本校の目指す「実行力」を育てていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1)生活習慣の定着	あいさつ運動の推進 時と場に応じた言葉遣いの指導	4	4
	(2)規律ある落ち着いた生活	校内のルール・マナーの指導	4	4
2 自主的・実践的な態度	(3)自分の考えを生かした活動	係活動・委員会活動の推進	3	3
	(4)集団の一員としての活動	学級会活動・クラブ活動の推進	4	4

**[評価指標1]**

(1)元気なあいさつと正しい言葉遣い  
 平均値 保護者3.7 児童4.4 教職員3.6

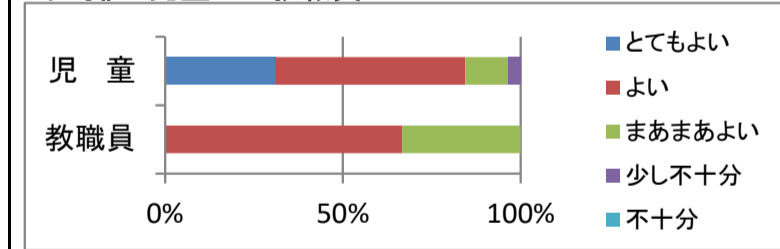


【あいさつキラッとさんの紹介】

運営委員会の2学期の振り返りで、「1学期より全校の挨拶に元気がなくなってきている」との声があがりました。委員会で児童が話し合い、3学期は全校の挨拶をもっと盛り上げていこうと、昼の放送で「あいさつキラッとさん」の紹介を行うことにしました。子どもたちの声やアイデアを生かしながら、東館小の気持ちのよい心のこもった挨拶の伝統を今後へつないでいきたいと考えています。



(2)規律ある落ち着いた生活  
 平均値 児童4.1 教職員3.7

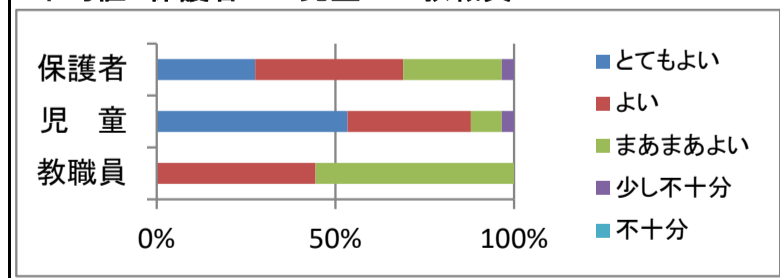


【みんなが生活しやすい学校にしよう!】

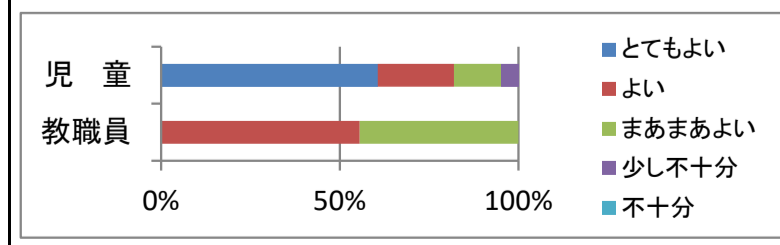
本校の子どもたちは外遊びが大好きで、冬期間も休み時間に外へ遊びに行き、雪遊びを楽しんでいます。遊び終わって校内へ入るときは、みんなの安全のため「校内へ雪を持ち込まない」という約束になっています。友達同士で互いの雪をはらったり、上級生が下級生のお世話をしたりする姿が自然に見られることも本校の自慢のひとつです。

**[評価指標2]**

(3)自分の考えを生かした活動  
 平均値 保護者3.9 児童4.4 教職員3.4



(4)集団の一員としての活動  
 平均値 児童4.5 教職員3.6



【係活動・当番活動】

各学級の実態に応じて、それぞれ工夫して活動しています。クイズ係・イラスト係・お誕生日係・読み聞かせ係・学級新聞係など、自分たちの生活がより楽しく豊かになるよう工夫して取り組んでいます。



## ア 児童の状況

### II 思いやりの心 たくましい心

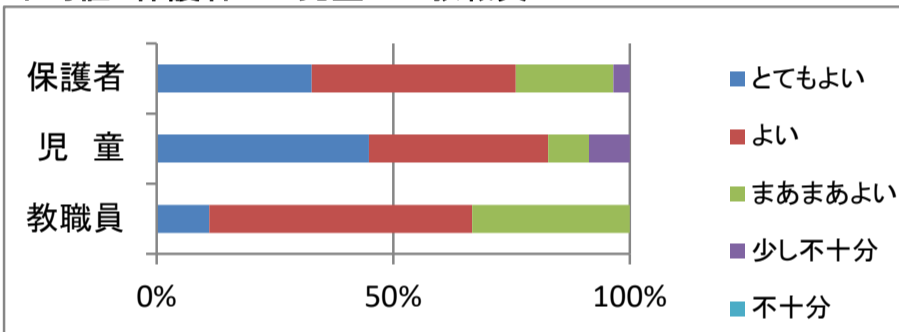
評価項目		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
互いを認め合い、高め合いながら、学校生活を送り、豊かな人間性をはぐくもうとしている。	前期	良好	良好	2・3年複式学級の様子を見ると、どちらの学年も落ち着いて学習していて感心した。子どもたちに尋ねたところ、いじめもないようだ。これからも、人のために役に立っているという気持ちを高めてほしい。
	後期	良好	良好	児童数が少なくなってきたこともあってか、子どもたちは同級生と仲よく過ごしている。コロナ禍で異学年交流ができなくなっているが、本校の特徴のひとつなので今後も大事にしてほしい。
学 自 校 の 評 価 善 の 策 概 要 と	【前期(→後期)】	感染症予防のため、児童間の交流がなかなか実施しにくい状況だが、各指導部や委員会でお互いの頑張りやよいところが見えるように工夫して取り組んでくれている。今後も校内環境の充実や掲示物の工夫・校内放送の活用等で、児童の心に一層働きかけられるようにしていきたい。また、めあてカードや各指導部からのカードも効果的に活用して、自己有用感をもてるよう取り組んでいく。		
	【後期(→次年度)】	延期となっていた児童会行事「東小っ子フェスティバル」を、ようやく12月に実施することができた。子どもたちが学年を超えて一緒にゲームを楽しんだり仲間と協力して役割を果たしたりする姿は、実に感慨深く、こういった活動や行事の大切さを改めて感じた。また、「キラキラの木」でお互いのよさや頑張りを紹介し合う活動も、大変効果的だった。子どもたちが心の交流を深める取り組みをこれからも工夫していきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな心と向上心	(5) 相手を思いやり助け合う心	特別の教科道德の充実 異学年交流	4	4
	(6) 自分を高めようとする意欲	目標達成に向けた取組 一人一人の活躍と称揚の場の設定	4	4
4 集団生活・集団行動	(7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級	互いのよさを認め合う場の設定	4	4

#### [評価指標3]

##### (5) 相手を思いやり助け合う心

平均値 保護者4.1 児童4.2 教職員3.8

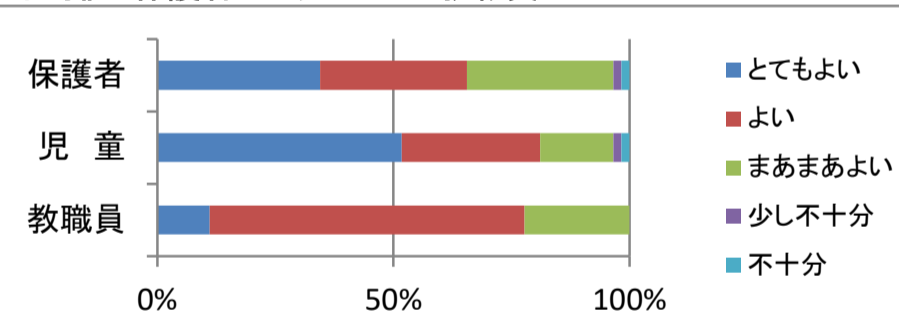


【東小っ子フェスティバル】

9月から延期になっていた「東小っ子フェスティバル」を、12月に行うことができました。久しぶりに全校児童が一緒に触れ合い、楽しい時間を過ごすことができました。縦割り班のメンバーで協力したり励ましたりする微笑ましい場面がたくさん見られました。

##### (6) 自分を高めようとする意欲

平均値 保護者3.9 児童4.3 教職員3.9



#### 【月目標の掲示】

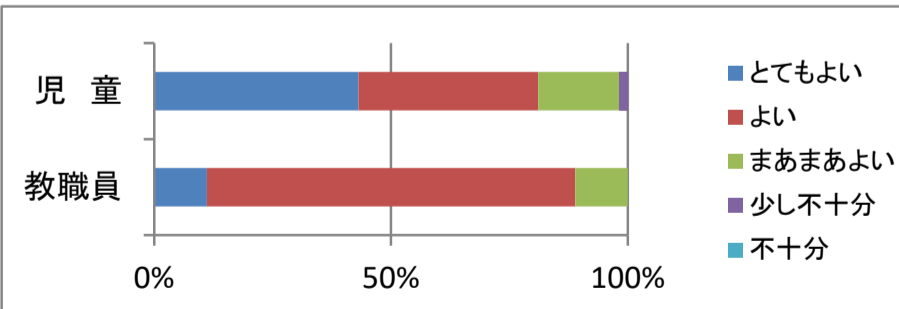
全校児童が月の重点目標を意識して生活できるように、各指導部が全校朝会でそれぞれ工夫して目標を伝えています。ミーティングホールには、目標に関連した掲示をして、児童の意識を高めるようにしています。



#### [評価指標4]

##### (7) 互いを認め合い自己有用感のもてる学級

平均値 児童4.2 教職員4.0



#### 【キラッとさんを

##### 探せ！】

11月は、友達のよいところやがんばっているところをメッセージに書いて、全校のみんなに伝える活動を行いました。カードを貼った「キラキラの木」は2本目となり、子どもたちもお互いのメッセージを読んで、嬉しそうにしている姿がたくさん見られました。



# ア 児童の状況

## Ⅲ 健康と体力

評価項目	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
食や運動を通して健康や体力への関心をもち、進んで健康な体づくりに取り組もうとしている。	前期	良好	良好	保護者から、子どもが怪我をして湿布を貼って帰ってきたとき、もっと早く連絡してほしいという声があったが、コロナに関する対応や情報提供など肯定的な声が多かった。メディアとの関わり方については、保育園とも連携しながら進めてよい。
	後期	おおむね良好	おおむね良好	児童のメディアコントロール力の向上は、本校にとって最大の課題である。児童にその危険性を指導するだけでなく、保護者の危機意識を高めていくことも大事である。継続的な取組を期待している。

**の自己改善評価の概要と学校**

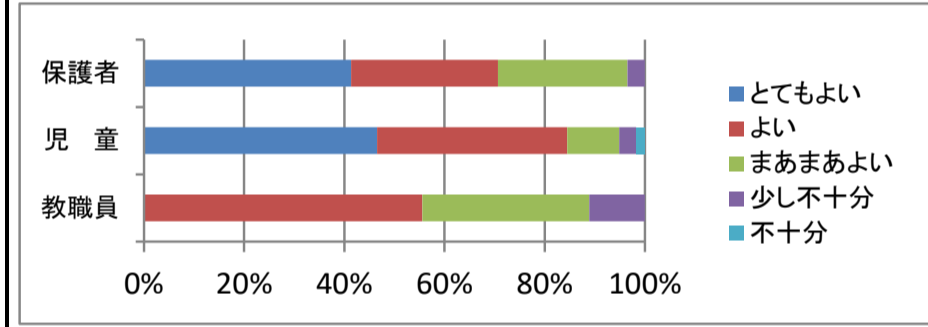
【前期(→後期)】健康な生活習慣の定着では、新型コロナウイルスの流行により1学期中に手洗い指導や歯みがき指導といった保健指導全般を行うことができなかつたことにより数値が下がったと考えられる。メディアと有意義な時間の使い方は今後も継続して意識づけできるようにしていく。望ましい食習慣の形成については、2学期以降計画的に栄養教諭と連携して食育活動を進めていく。体力と運動能力の向上は、コロナ禍でもできる活動を委員会と連携して進めていき、衛生面についてもマスクやソーシャルディスタンスについての呼びかけを行い、感染症対策についての意識も高める。体力の向上のため、可能な範囲で全校での運動遊びなどを提案していく。

【後期(→次年度)】メディアコントロール力の向上のために、現在使用している体温チェックカードにメディア欄を設け、メディア使用時間を継続的に記録させるとともに、保護者にも把握してもらおう。食育に関しては、栄養教諭と連携し、給食に関する情報や食材に関する情報を健康委員を通して伝える。冬の時期は運動量が落ちるので、他学年、ボール使用など状況に応じて実施し体力向上を図る。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
5 保健・食育の状況	(8)健康な生活習慣の定着	保健指導の充実 家庭への啓発活動 健康な生活習慣アンケート	4	3
	(9)望ましい食習慣の形成	給食指導を通じた食育 家庭への啓発活動 栄養教諭との連携	4	4
6 体力づくり	(10)体力と運動能力の向上	体育の授業の充実 体力テストの活用 外遊びや運動の奨励 体育環境づくりと整備	4	4

### [評価指標5] (8)健康な生活習慣の定着

平均値 保護者4.1 児童4.2 教職員3.4

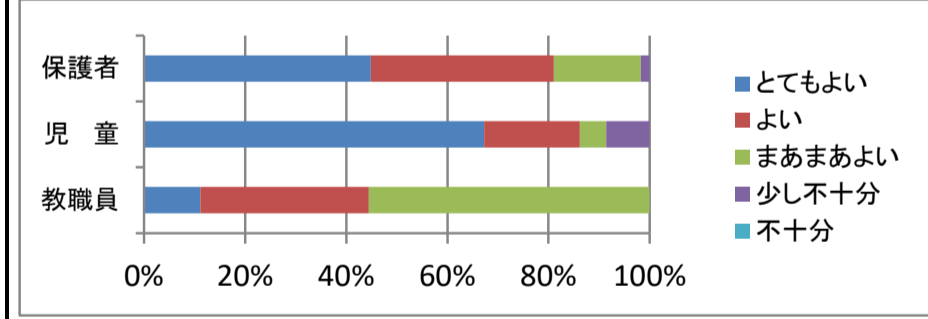


### すこやかチャレンジカード(1月)

長期休み明けには全校ですこやかチャレンジカードを実施して、休み中に乱れた生活リズムを少しでも早く正しいリズムに戻せるように取り組んでいます。保護者の方にも確認していただき、現状を把握するとともに、励ましのメッセージもいただいています。

### (9)望ましい食習慣の形成

平均値 保護者4.2 児童4.4 教職員3.6



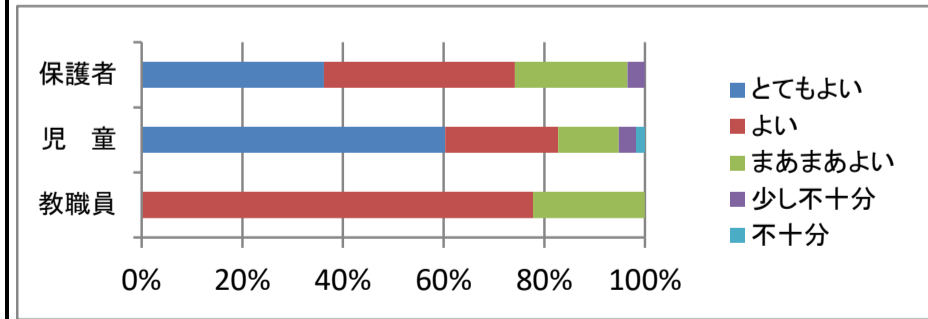
### 給食時の放送

給食時の放送を使って、その日の給食に使われている材料のことや、豆知識などの情報を栄養教諭から提供していただき紹介しています。

### [評価指標6]

#### (10)体力と運動能力の向上

平均値 保護者4.1 児童4.4 教職員3.8



### マラソン記録会(10月)

10月には学団ごとにマラソン記録会を実施しました。肌寒い時期の開催となりましたが、天候には恵まれ、どの児童も全力で走ろうと頑張る姿がみられました。



### 全校朝会(1月)

これまでのアンケートや調査を元に今後の健康な生活習慣に関わる課題について、全校で共有しました。特にメディアについて正しい使い方を身につけられるよう意識付けを行いました。



# ア 児童の状況

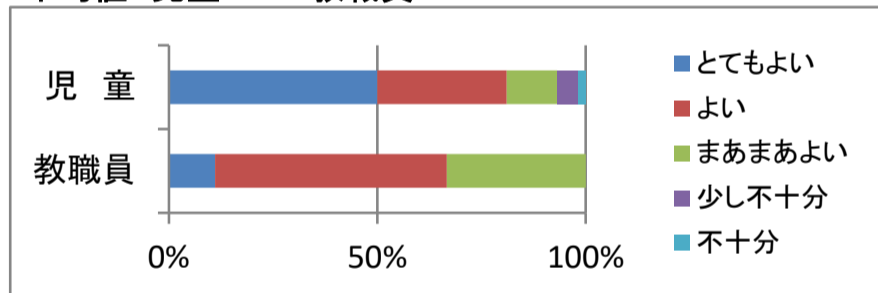
## IV 基礎学力

児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、意欲的に学習に取り組み、学力を向上させようとしている。	前期 おおむね良好	良好	学校全体で、学習リーダーを育てながら主体的に学ぶ子を育てようとしていた。子どもたちも自分たちで授業を進めようとしていた。担任がもう少し余裕をもって笑顔で指導してほしいと思う場面があった。
	後期 良好	良好	授業参観の際は、どの学級でもみんな元気に手を挙げて発表し、友だちの発表に続けて自分の考えを述べていた。複式学級での授業も軌道に乗っているようだった。
校自 己 改 善 策 の 概 要 と 学	【前期(→後期)】 昨年からの「極める」をキーワードにした取り組みが、基本的な学習習慣の定着の面で、成果として実感できるようになってきている。しかし、子どもたちの評価が昨年に比べ下がっている。子どもたち自身に「わかった」「できた」の実感があまりないことや、「もっとできるようになりたい」という思いから評価が下がっていると考える。そこで、今後は研究の重点を再確認し、足並みを揃えて授業実践を積み重ねたい。教員の授業力向上が、基礎学力の向上にも繋がると考える。授業では一人一人に役割を与える等、子どもが輝ける場面を意図的に設定していくことで、子どもたちが「わかった」「できた」を実感できるようにしたい。		
	【後期(→次年度)】 前期に比べて、全体的に評価が上がっている。11月に行われた市校長会学校経営研に向けての日々の授業作りを通して、教師も児童も授業に対する意識が変わってきたためだと考える。基礎学力の定着について、家庭学習パワーアップの取り組みなどをしてはいるが成果を実感しづらいことで、評価に繋がらないと考える。次年度は、ひとり勉強のめあてを立て振り返りをしたり、がんばりの紹介をしたりして、「自分のための家庭学習」に取り組めるようなしなかけをしていきたい。そして、各種調査・検査の結果分析を活かし、確実な基礎学力の定着を目指したい。		

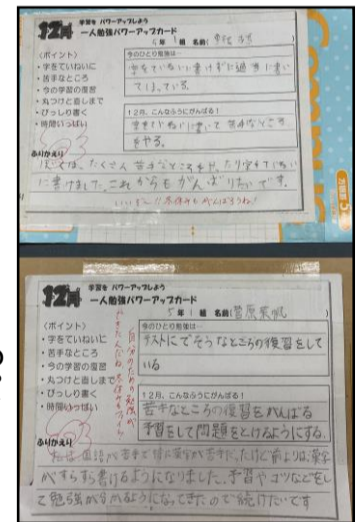
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 学習への取組	(11) 基本的学習習慣の定着	聞き方・話し方指導の徹底 「学習の7か条」の徹底 ハンドサインの活用 ノートの使い方指導 家庭学習の励行	3	4
	(12) 基礎学力の定着	学習が定着する授業の構築 パワーアップタイム 東小っ子テスト	3	4
	(13) 主体的な学習態度	学び合いの場の確保 学習課題の吟味 指導方法の工夫	3	4
8 諸検査の状況	(14) 学習状況調査・学力検査等の結果の改善	実態把握と課題分析 回復指導の実施	3	3

### [評価指標7]

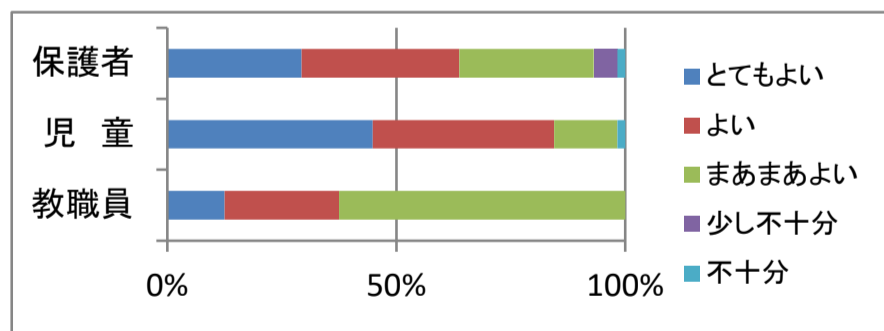
#### (11) 基本的学習習慣の定着 平均値 児童4.3 教職員3.8



【家庭学習パワーアップの取り組み】  
全校朝会で「自分のためになる家庭学習」について話し合い、ポイントを確認した。めあてを決め取り組み、月末に校長先生にノートを見ていただく機会を設け、振り返りもした。



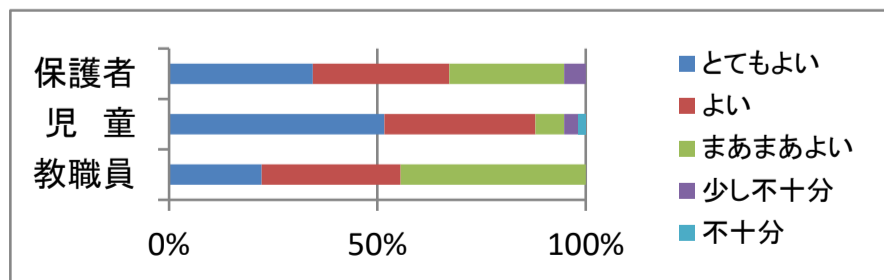
#### (12) 基礎学力の定着 平均値 保護者3.8 児童4.3 教職員3.6



#### 【「45分で振り返りまで」を目指した秋田の探究型授業の実施】

日々の教材研究を通して、また市校長会学校経営研に向けて、授業改善に取り組んだ。授業の「ねらい」を明確にし、ねらいを達成するための授業構成、発問、そして本校の学び合いの時間である「アクティブタイム」を設定し、子どもたちが主体的・対話的に学ぶ姿を目指した。

#### (13) 主体的な学習態度 平均値 保護者4.0 児童4.3 教職員3.8



#### 【学習状況調査に向けたパワーアップの取り組み】

学力定着のために、パワーアップタイムを実施した。通過率の低い問題を中心に、学習状況調査の過去問に取り組んだ。少人数グループに分かれて学習することで、一人一人の学びに寄り添えるようにした。

**ア 児童の状況**

**V 組織運営**

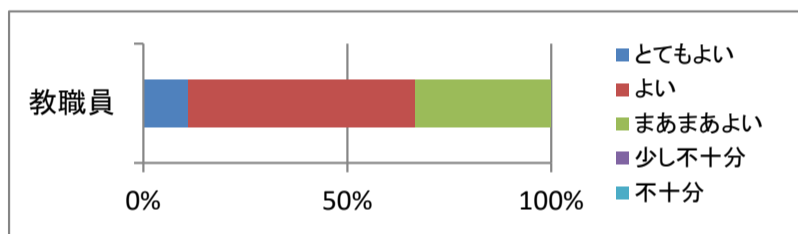
児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
重点目標の具現化に向けて、特色ある学校づくりが、計画的・組織的に推進されている。	前期	おおむね良好	良好	とんぶりに関する活動など、特色ある教育活動が行われている。子どもたちは楽しみながら取り組んでいる。マスコミからの取材も多く、地域にも元気を与えている。
	年度	おおむね良好	良好	児童数の減少に伴い、児童不在の地区も出てきて学校報の配布なども課題となってくる。運動会などの行事も、地域と連携しながら実施していく方法を模索してほしい。
の自己評価の概要と学校	<p>【前期(→後期)】指標10の教育課程の編成と実施に関しては、各学年の計画に基づいてキャリア教育が進められ、様々な体験が子どもたちの学びにつながっていると考えられる。その他の2つの指標については、後期に向け課題を明確にして改善策を講じなければならない。目指す子どもの姿に照らし合わせ、今現在の子どもの実態を把握し、付けるべき力をしっかりと確認し、子どもたち自身が自分を高めようと思う取組を進めていくことが重要である。また、授業改善と指導力の向上については、研究授業や研修会に「自分であればどう指導するか」という視点で臨み、参考にすべき点を積極的に日々の実践に取り入れるなど、各々が授業改善に努める必要がある。</p> <p>【後期(→次年度)】指標9の教職員の学校運営参画と11の職員研修は前期と同じ評価だった。各指導部の反省から、前期の課題を意識して、児童の実態把握を踏まえた施策に取り組み、一定の成果を上げている。しかし、評価のアップに繋がらないのは、取り組み方次第ではもっと児童が変容するのではないかという反省が込められていると思われる。現状の成果や施策に満足せず、更に東館の子どもの力を高めていけるよう、児童の実態の共通理解と重点目標の設定を進めたい。指標10に関しては、3・4年合同のとんぶり活動の課題、コロナ禍による活動の中止や変更などがマイナスの要因と考えられる。児童数減に伴うキャリア教育計画の大胆な見直しや、状況に柔軟に対応できる計画を考えていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 教職員の学校運営参画	(15) 経営方針や重点目標・施策の共通理解	実態把握による重点施策(東館3つのH)の設定と明示	3	3
	(16) 各指導部の運営と実践	「東館3つのH」の施策の提案 組織的な取組の実践	3	3
10 教育課程の編成と実施	(17) 特色ある教育課程	ふるさとキャリア教育の推進 円滑な教育課程の実施	4	3
11 職員研修	(18) 授業改善と指導力の向上	研究テーマに基づいた授業実践 授業研究会の充実 各種研修会への参加	3	3

**[評価指標9]**

**(15) 経営方針や重点目標・施策の共通理解**

平均値 教職員3.8



**☆「東館3つのH」の施策の提案と具体的な取組**

**9月 実行力アップパート2(生徒指導部)**

～ナイス！言葉づかいで、1Up！～

家庭での基本的なあいさつがきちんとできる子ども、相手のことを考えた言葉づかいができる子どもを目指して、カードを活用して意識付けを図ることができた。

**10月 話し力アップ(学習指導部)**

～アクティブに発信しよう～

授業中の発表の声の大きさ・口の開き方・意図が伝わるような話し方などの指導と、話し手を見て聞く・最後まで聞く・大事なことをメモしながら聞くなどの聞き方指導を重点的に行った。また、学習発表会に向けて、大勢の人に聞いてもらうことを意識した話し方の指導も行った。

**11月 実行力アップパート3(生徒指導部)**

～にっこりサンキューで1Up！～

みんなのためにより行いをした友達やがんばっている友達を全校に紹介する取組を行い、花びらカードに書いて掲示した。また、放送でも紹介し子どもたちの意欲付けを図った。他学年の行いについても紹介するなど、たくさんの方のよいところを目を向けるよい機会となった。

**12月 学習をパワーアップしよう(学習指導部)**

県学習状況調査(4年以上)やCRT検査(全学年)に向け、これまでの学習の復習に全職員で取り組んだ。学級全体で落ちているところを中心に計画的に学習を進めたことで、子どもたちの理解が深まった。これまでの諸検査の結果を分析し、進級までの間に一人一人の理解と定着を促したい。

**1・2月 健康力アップパート3(保健体育部)**

～自分の生活について振り返り、健康力をアップさせよう！～

**☆各学年のふるさとキャリア教育**

- 1年: さつまいもde料理 保育園との交流会
- 2年: 比内図書館見学 さつまいもde料理
- 3・4年: とんぶり販売 レシピ開発
- 5年: 大葛金山太鼓 とんぶりダンス
- 6年: お仕事調査隊

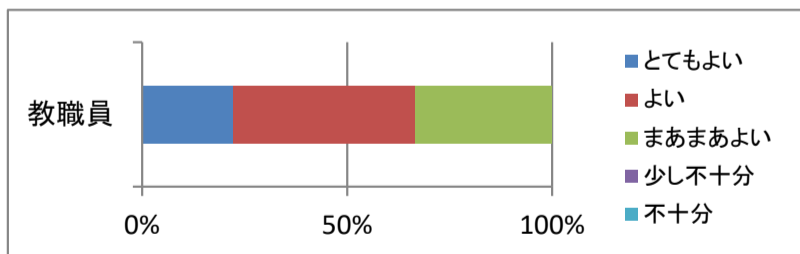


さつまいもde料理

**[評価指標10]**

**(17) 特色ある教育課程**

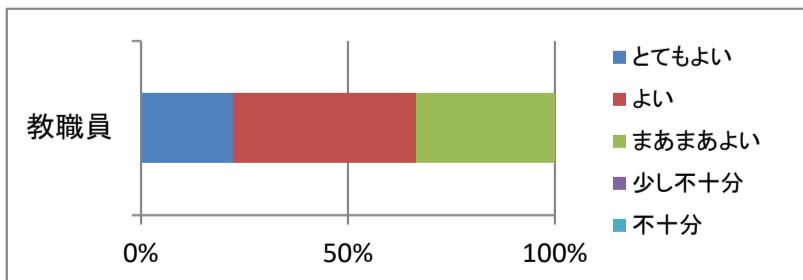
平均値 教職員3.9



**[評価指標11]**

**(18) 授業改善と指導力の向上**

平均値 教職員3.8



大葛金山太鼓

5年生が、加賀谷さんのご指導を受け、学習発表会で披露した。



お仕事調査隊

6年生が企画・運営し、3つの職業についてお話を伺った。



**ア 児童の状況**

**VI 保護者・地域との連携**

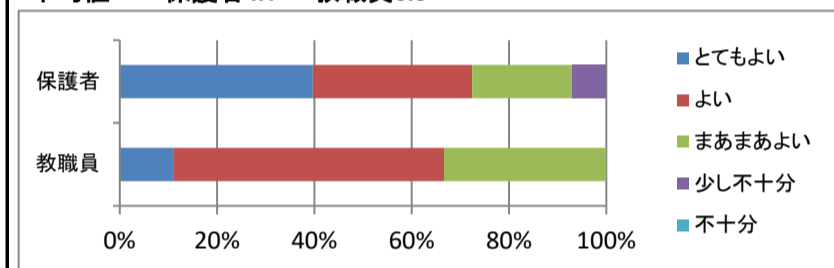
評価項目	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
学校の取り組みが分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	おおむね良好	きわめて良好	昨年度実施した児童減に伴うPTAの組織再編は、新組織への移行がスムーズに進んでいる。地域と協働しながら進んでいる。今後も地域との良好な関係を続けてほしい。
	後期	良好	良好	2年後に創立150周年を迎える。150周年記念事業の実施に向けて、いろいろ課題もあると思うが、学校と保護者・地域が連携・協力して頑張っていきたい。
改自己評価の概要と学校の	【前期(→後期)】全体としての傾向は前年度と同様であるが、(20)が-0.3と少し低下している。これは、昨年度実施した学校規模に合わせたPTA組織再編に伴い、PTA活動が再編され夜の会議等が少なくなったことが影響しているかもしれない。また、全体の数字には表れていないが(19)保護者評価が著しく低い方が数名いた。これは、学校のホームページ更新を7月に実施したことが影響しているかもしれない。ホームページは、1・2学期は中間と学期末に更新するようにしたい。(21)は教職員の減少により、今まで通りできなくなってきた部分もあるが、いろいろ工夫しながら取り組んでいきたい。			
	【後期(→次年度)】教職員の(20)の-0.2ポイント、(21)の-0.5ポイントが目立つ。(20)は、PTA組織再編で生活指導部・文化部・保健体育部が学年部一つに統合されたことにより保護者と関わり合う機会が減少したことが大きいと思われる。また、(21)は、協力農家の都合でできなかった田植え・稲刈り、コロナ禍のため中止となった心のかけ橋フェスティバル、天候不順のためできなかったとんぶりの草取りなど、ふるさとキャリア教育が様々な要因のためできなかったことが大きいと思われる。その反面、5年生の大葛金山太鼓の継承など新たに行っている学習もある。今までの活動の継続優先ではなく、スリム化していく学校規模に合わせた新たな学習活動を考えていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
12 情報の受発信	(19) 学校の様子が伝わる情報発信	魅力ある学校報・学年通信・ホームページ・ブログ等による情報の発信	4	4
	(20) 保護者・地域からの情報収集	PTA諸会合 家庭訪問 個人面談 保護者アンケート 学校評議員会等の開催	3	3
13 地域の教育力の活用	(21) 地域素材や人材の効果的な活用	地域学習材の活用 体験学習の推進 授業や諸活動でのゲストティーチャーの活用	4	4

**[評価指標12]**

**(19) 学校の様子が伝わる情報発信**

平均値 保護者4.1 教職員3.8

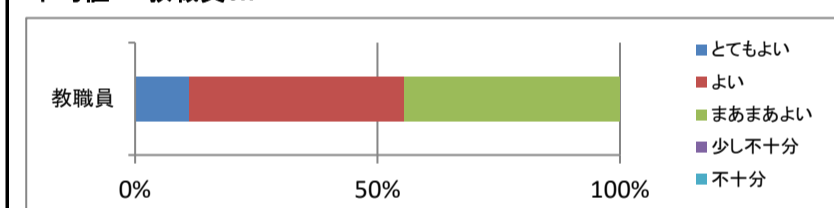


**【学校の様子が伝わる情報発信等】**

- ① 隔週発行の各学級の「学級だより」
- ② 毎月末発行の学校だより「犀川」の学区全戸配付
- ③ ホームページによる学校評価等の開示
- ④ ブログによる日々の教育活動の紹介
- ⑤ 新聞記事への掲載 ※掲載は10月～2月に5回 (ふかわりょうさんと一緒にとんぶりの収穫、お仕事調査隊等)
- ⑥ テレビ放映 ※10月～2月に1回 (ふかわりょうさんと一緒にとんぶりの収穫3社)
- ⑦ 一斉メール配信 (テレビ放映のお知らせ、災害や熊への注意等)

**(20) 保護者・地域からの情報収集**

平均値 教職員3.7



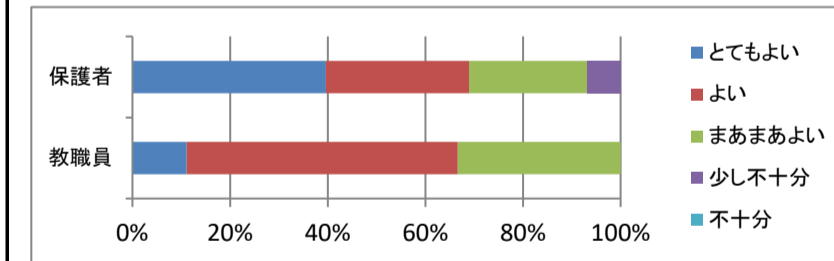
**【保護者・地域からの情報収集】**

- ① 2学期末PTAにおける学級懇談の実施
- ② 各学年親子レクでの情報交換  
後期… 10/22 6年部 ※他学年は前期に実施

**[評価指標13]**

**(21) 地域素材や人材の効果的な活用**

平均値 保護者4.0 教職員3.8



**【人材の効果的な活用】**

- ① 正課クラブ…「将棋クラブ」「ふるさとクラブ」…前期と同じ方々の協力
- ② とんぶり栽培、販売・調理…本間均さん、PTA3・4年部
- ③ お仕事調査隊(3～6年)…フリーアナウンサー1名、理容師1名、設計士2名
- ④ 租税教室…大館市役所税務課より3名
- ⑤ 1・2年町探険…比内図書館司書
- ⑥ PTA家庭教育学級…国際教養大学3年畠山雅妃さん(H25本校卒業生)
- ⑦ スキー教室…比内スキークラブ3名、大館スキークラブ1名、地域の方1名、保護者18名の指導協力者

**【地域素材の活用】**

○総合的な学習の時間

- 3年 とつと館前でとんぶり販売。学習発表会でのとんぶり販売の際のPR。とんぶり加工所見学。
- 4年 とつと館前でとんぶり販売。学習発表会でのとんぶり販売。2学期末PTAで、親子でとんぶり料理「T1グランプリ」。
- 5年 学習発表会で、金山太鼓披露・比内地鶏について調べたことを発表。比内とりの市で「とんぶりの唄」ダンス披露。
- 6年「お仕事調査隊」…3つの種類の職業の方を招き、3～6年生が仕事について調査する活動を運営。

○生活科

- ・1・2年遠足…ベニヤマ自然パーク、町探険…比内図書館



【キッズマーケット(10月)】



【家庭教育学級(12月)】



【お仕事調査隊(12月)】



【とんぶりの唄ダンス(1月)】